

● 朝日遺跡

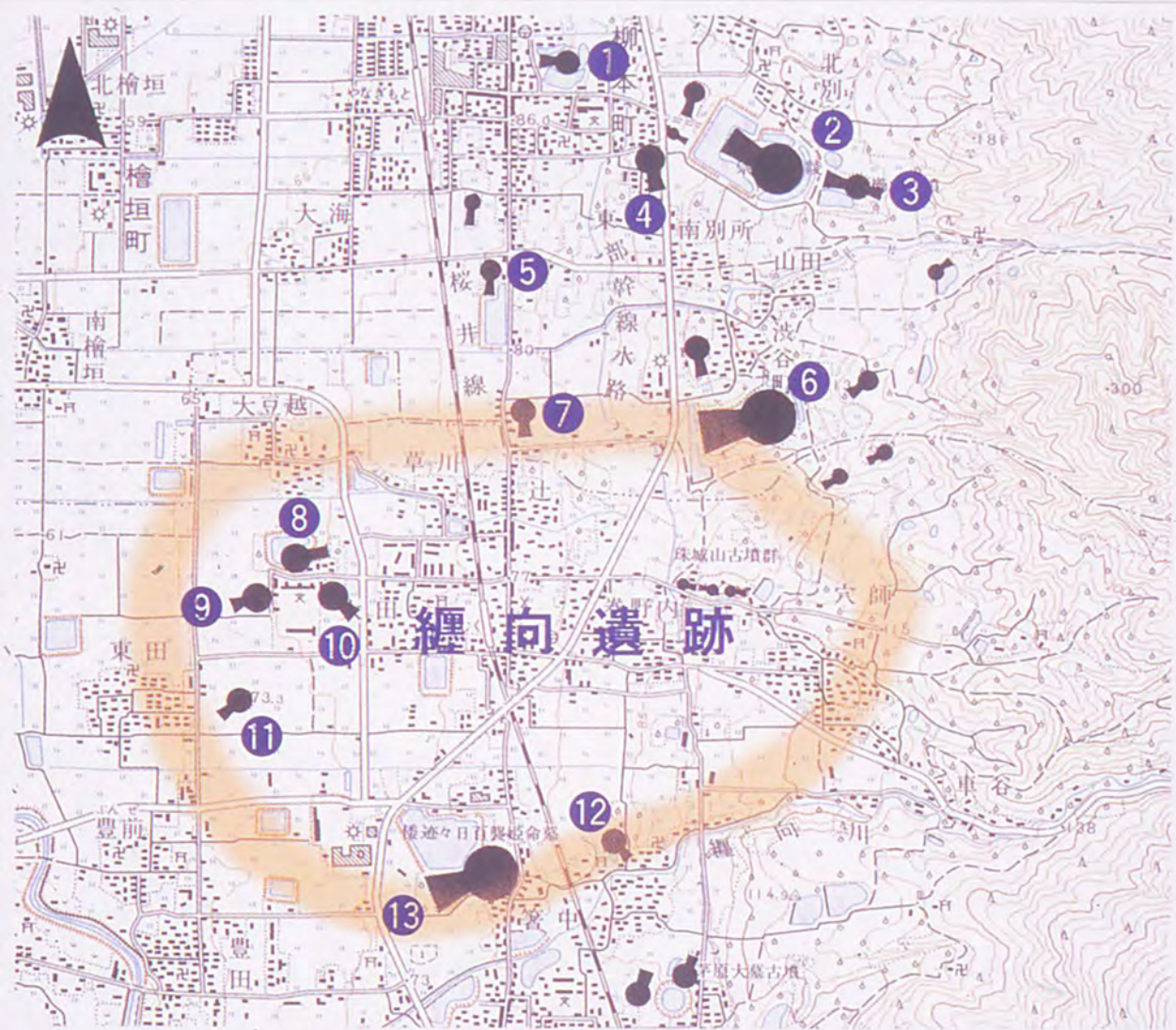
● 三ノ畦・横枕遺跡
● 伊勢遺跡

● 加茂遺跡

● 池上・曾根遺跡

● 唐古・鏡遺跡

● 纏向遺跡



- | | | |
|----------|----------|----------|
| ① 黒塚古墳 | ② 行燈山古墳 | ③ 櫛山古墳 |
| ④ 天神山古墳 | ⑤ 石名塚古墳 | ⑥ 渋谷向山古墳 |
| ⑦ 柳本大塚古墳 | ⑧ 勝山古墳 | ⑨ 矢塚古墳 |
| ⑩ 石塚古墳 | ⑪ 東田大塚古墳 | ⑫ ホケノ山古墳 |
| ⑬ 箸墓古墳 | | |





建物 D



建物 C



建物全景



建物 D 建物 C より 6.4m 程東側に位置し、3 世紀代では日本最大の規模をもつ大型建物です。その大きさは調査の状況や建築学的な検討から南北 4 間 (119.2m) × 東西 4 間 (12.4m)、床面積 238.08 ㎡として復元でき、それぞれの柱間は南北間で 4.8m 前後、東西間で 3.1m 前後になります。建物の柱穴は全て一辺 1m ~ 1.7m の方形プランのもので、柱材は全



建物 C 第 162 次調査において、建物の西側柱列と北側の棟持柱が検出されていたもので、今回の調査により、南北 3 間 × 東西 2 間 (約 8m × 5.3m) の規模の近接棟持柱建物となります。

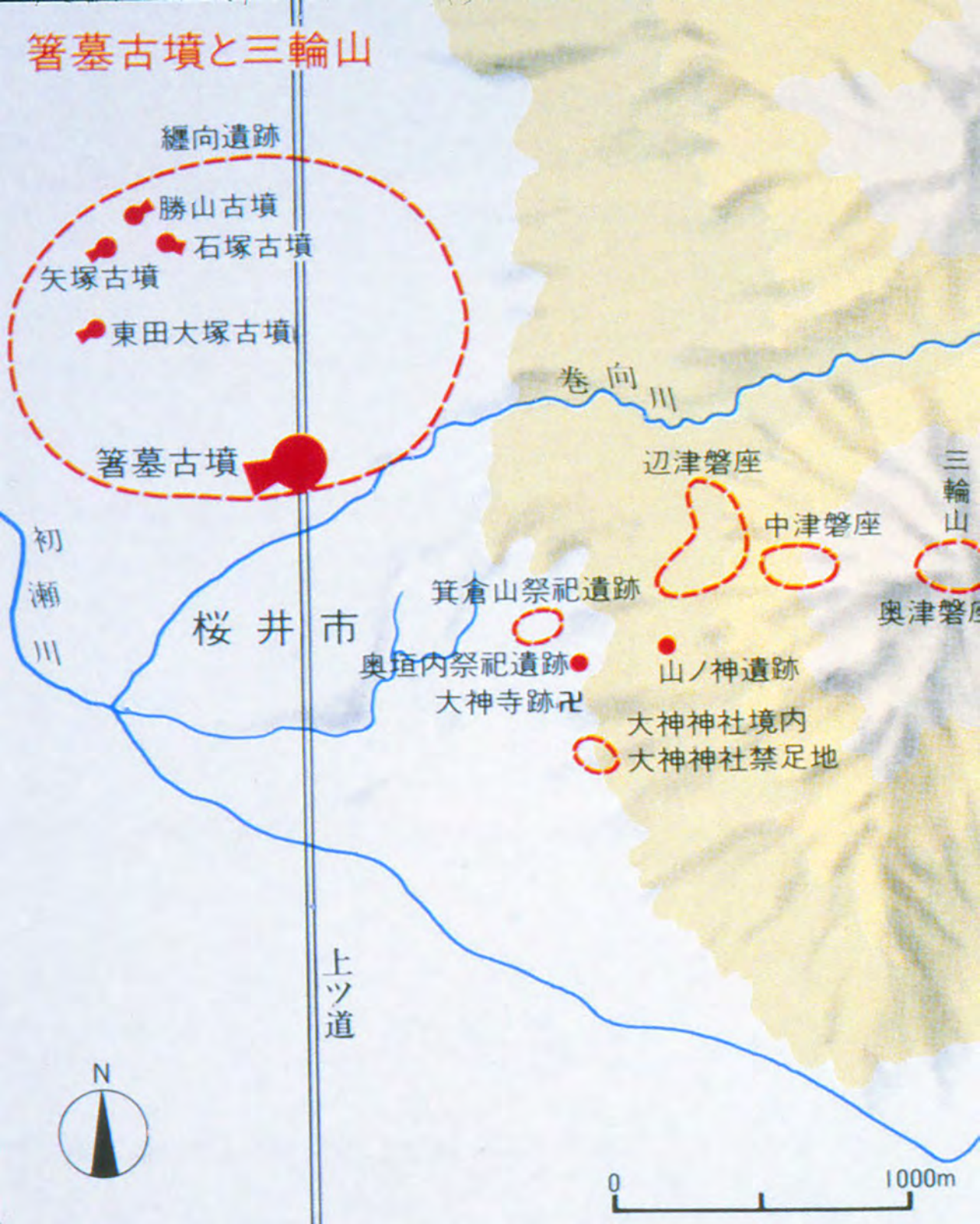


柵に囲まれた建物

* このCG画像は黒田龍二氏 (神戸大学) 監修の下、NHKと有限会社タニスタの協力を得た



箸墓古墳と三輪山



纏向遺跡

勝山古墳

石塚古墳

矢塚古墳

東田大塚古墳

箸墓古墳

巻向川

辺津磐座

中津磐座

三輪山

奥津磐座

初瀬川

桜井市

籾倉山祭祀遺跡

奥垣内祭祀遺跡

大神寺跡

山ノ神遺跡

大神神社境内

大神神社禁足地

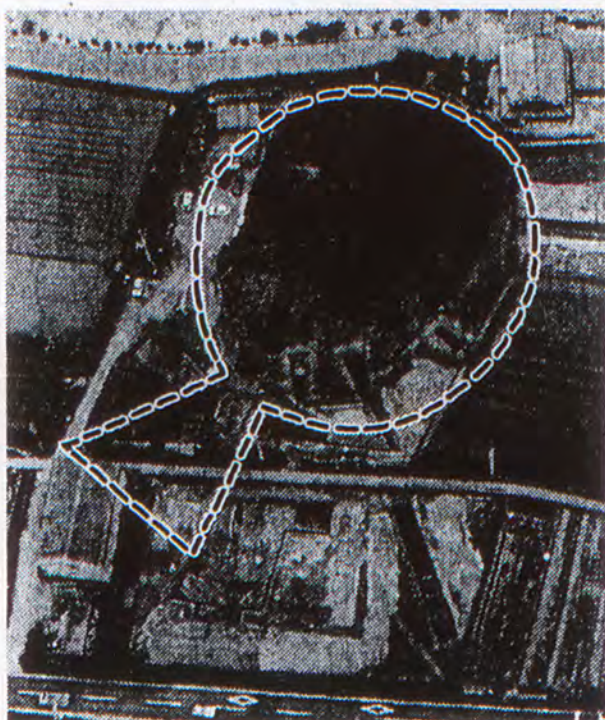
上ツ道



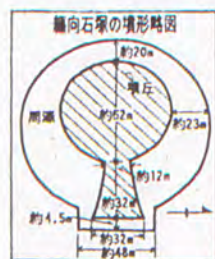
0 1000m

纏向石塚**箸墓古墳の原型****邪馬台国畿内説を補強**

檀原考古研調査



古代へのロマンを秘め、発掘調査が進む纏向石塚 (点線内=本社ヘリコプターから)



奈良県桜井市の纏向(まさむく)遺跡にある弥生時代の墳丘墓「纏向石塚」で発掘調査を進めている同県立檀原考古学研究所と同市教委は八日、この墳丘墓が特異な前方後円形をしており、わが国最古の前方後円墳で邪馬台国の女王卑弥呼の墓とも言われる箸墓(はしむら)の原型だとして発表した。この形は九州や関東地方の墳墓にも受け継がれているため、纏向地区一帯は三世紀にわが国の中心地だった可能性が強まり、邪馬台国畿内説を補強する資料の一つとなりそうだ。

同遺跡は、弥生時代後期(三世紀)から古墳時代にかけてのわが国最大の集落遺跡。運河遺構や堀を立てた柱建物、さらに関東以西の全国各地で焼かれた土器が大層に出土し、邪馬台国畿内説の根拠の一つになって

いる。

纏向石塚は同遺跡の北西部にあり、弥生期では全国最大級の墳丘墓。これまでの調査で祭祀(さいし)用の鳥形木製品、呪(まじ)術的な弧文の文様を施した円形板製品などが出土し、集落の王墓と見られている。今回の調査で、纏向石塚は全長九十四メートル、幅四・

五・二十三メートルの周溝に囲まれていることがわかった。墳の形は、先端部が三味線のバチ状に開いた方形と、不整形な円形が組み合わさった特異な「前方後円形」だった。

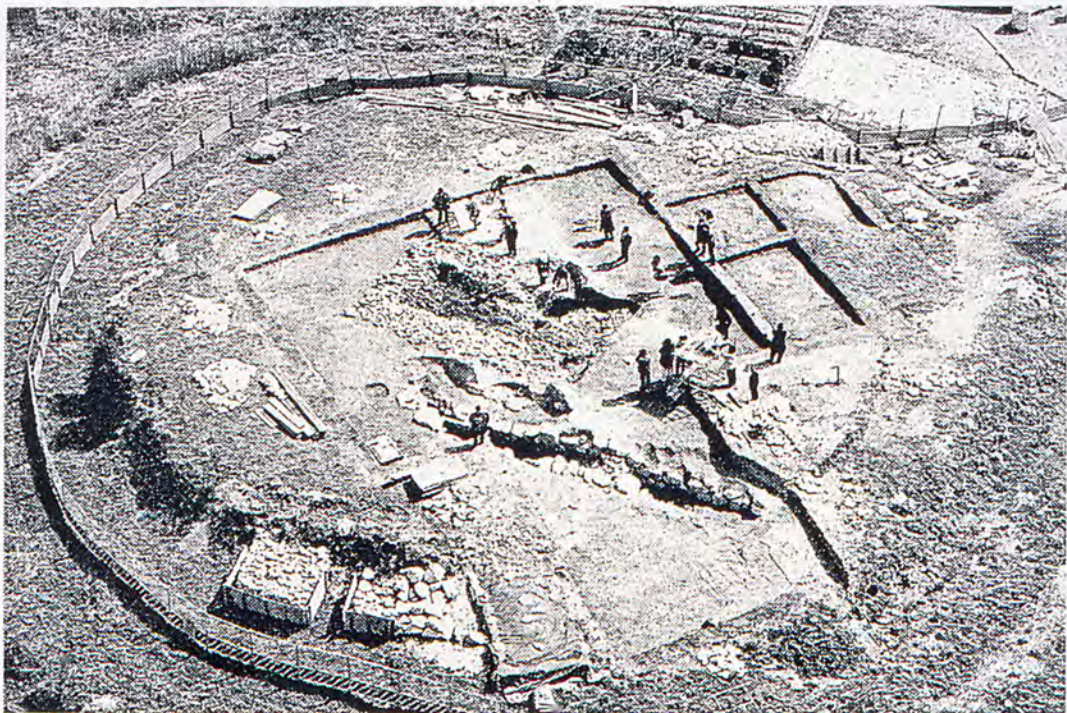
方形部は長さ三十二メートル、先端部の幅も三十二メートル、後円部は長さ六十四メートル、短径六十二メートル、細くなった連結部は幅が約三メートル、高さ約一メートルと推定された。

また、後円部の長径と前方部の長さの比率は二対一で、この比率に基づいた墳丘墓が、後に築かれた千葉県・神門三号墓、福岡県那珂八幡墓など全国十数か所にも出現しており、纏向遺跡の墳丘墓の造営プランが関東以西の日本各地に影響を及ぼしたことも確実となった。

また、後円部の長径と前方部の長さの比率は二対一で、この比率に基づいた墳丘墓が、後に築かれた千葉県・神門三号墓、福岡県那珂八幡墓など全国十数か所にも出現しており、纏向遺跡の墳丘墓の造営プランが関東以西の日本各地に影響を及ぼしたことも確実となった。

墳丘墓 階級社会が現れた弥生中期ごろ出現した権力者の墓。古墳の前段階とする説があるが、最大級の纏向石塚でも統一国家出現のシンボル箸墓古墳に比べ、体積だけでも約百分の一と大きな隔絶があるため、「墳丘墓」と呼んで古墳と区別される。

「石囲い木柵」や画文帯神獸鏡などが
出土したホケノ山古墳(奈良県桜井市)





11.3.2









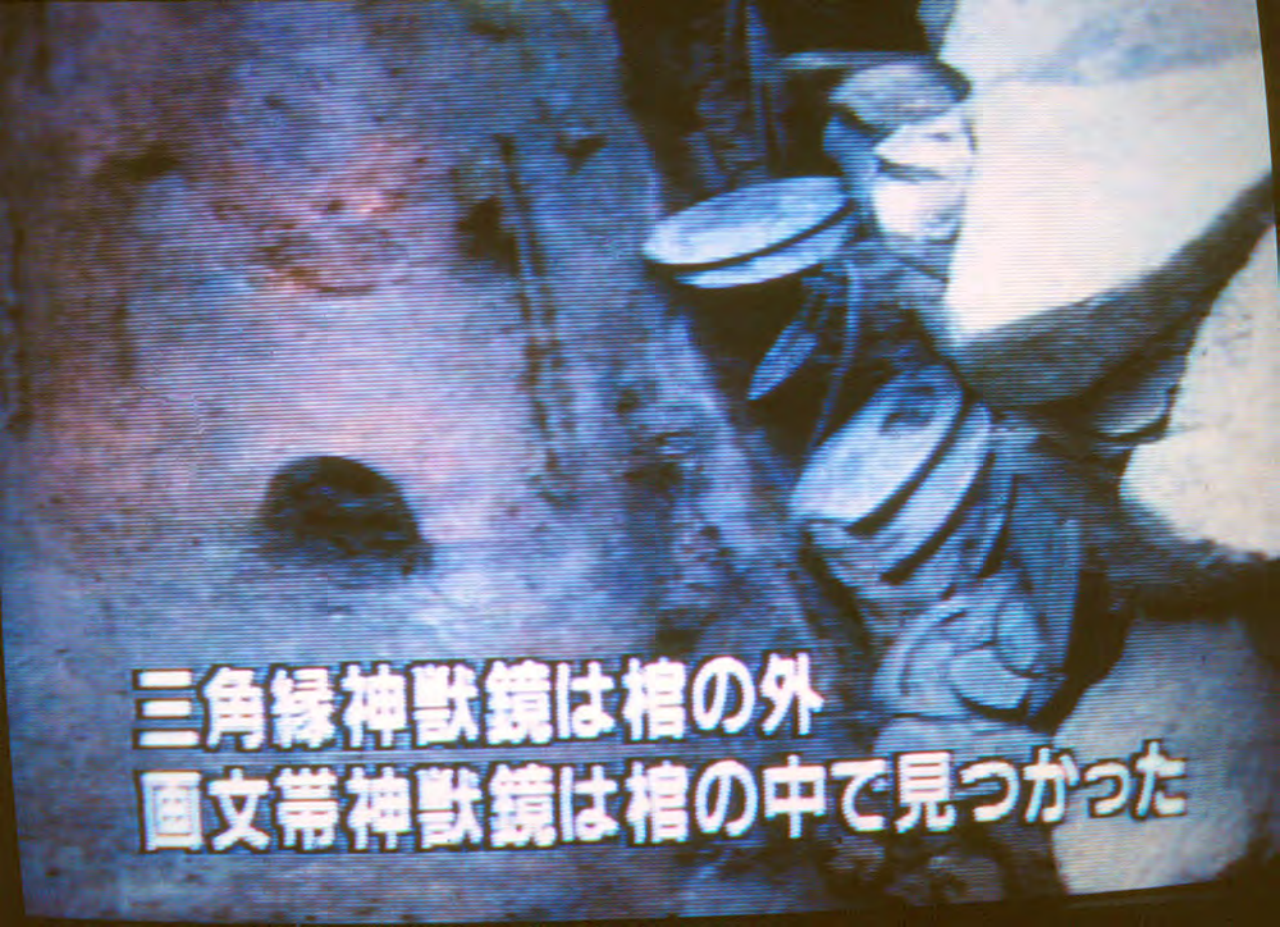
95 3 24



11 3 2







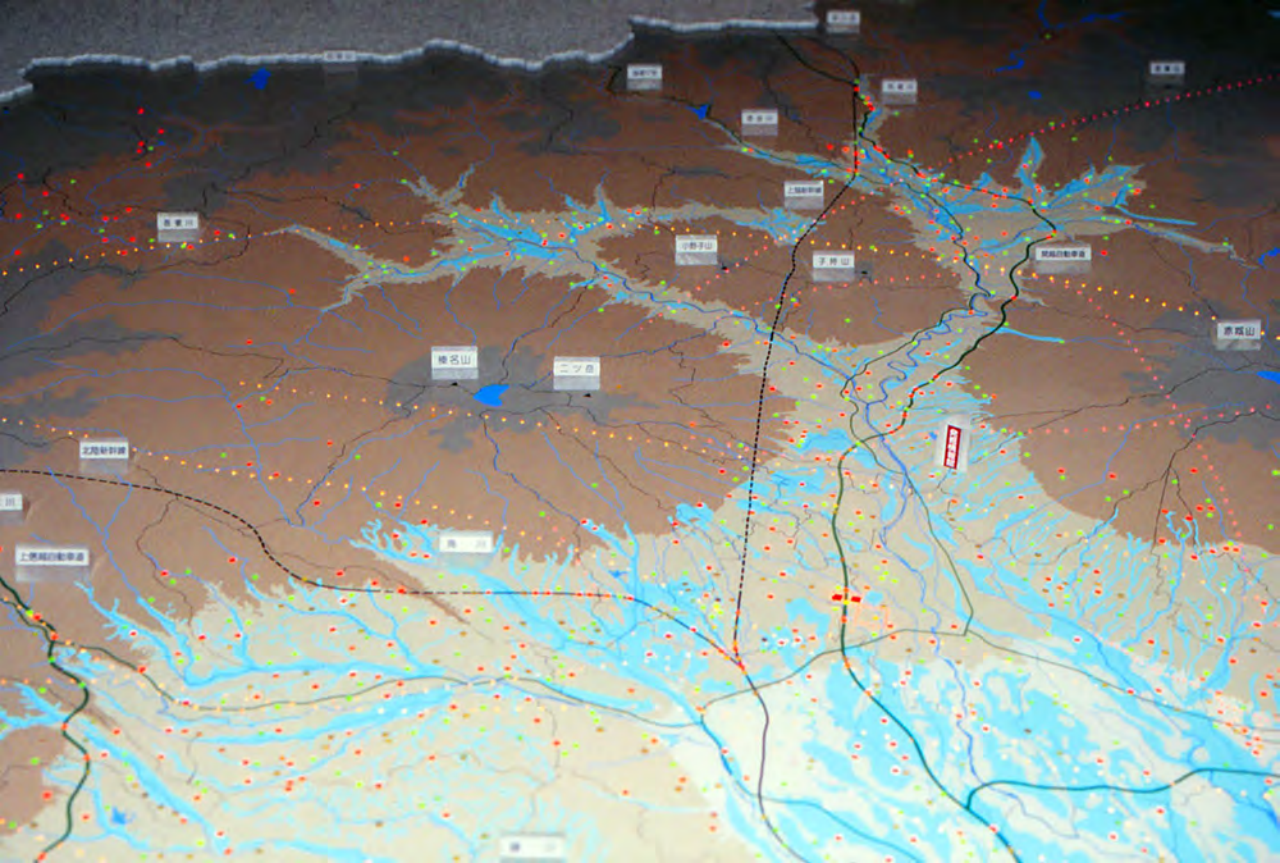
三角縁神獸鏡は棺の外
画文帯神獸鏡は棺の中で見つかった



文部科学省
国史跡指定
尾道藩本陣跡
石垣



11 3 4



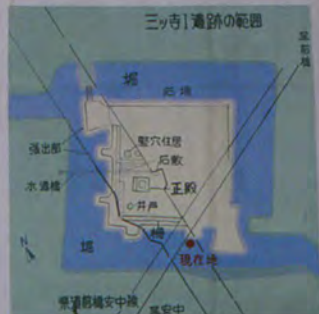




古代豪族の大居館

三ツ寺I遺跡

三ツ寺I遺跡は、古墳時代(約500年前)に、榛名山の東南麓を治めた豪族の館跡で、日本で初めて発見されました。西暦5世紀後半に築かれ、6世紀前半には廃棄されています。館は、石垣と3重の柵で囲まれた一辺36mの正方形を成し、いくつもの張り出しが造り付けられています。館内部には大きな建物・井戸・祭りの場とみられる石敷の施設・竪穴住居があり、豪族の居住・政治・祭りとともに金属の精練も行われました。館の周囲には、河川を改修して造った幅30m・深さ3.5mの堀が巡っています。堀には入口である木製橋や外部から水を引く水道橋が架かっていました。発掘されたのは一部分ですが、規模・構造や当時の土木技術を知る上で、きわめて学術的価値の高い跡です。周辺には、豪族の墓である保渡田古墳群をはじめ、庶民の村々・水田・畑の遺跡が存在し、豪族をとりまく社会がわかる点でも、重要な地域となっています。









貝の道



有珠シモリ遺跡出土の貝製品 写真：伊達市教育委員会 提供（北海道）



貝輪粗加工品(ゴボウラ)



イモガイ



ゴボウラ

遺跡名	都道府県
1 清水貝塚	沖縄県(貝志川村)
2 古座間味貝塚	沖縄県(座間味村)
3 瀧門貝塚	沖縄県(浦添市)
4 平敷屋トフバル遺跡	沖縄県(勝連町)
5 大久保原貝塚	沖縄県(読谷村)
6 貝志堅貝塚	沖縄県(本部町)
7 貝志原貝塚	沖縄県(伊江村)

遺跡名	都道府県
8 広田遺跡	鹿児島県
9 松ノ尾遺跡	鹿児島県
10 高橋貝塚	鹿児島県
11 吉野ヶ里遺跡	佐賀県
12 千々賀庚申山遺跡	佐賀県
13 大友遺跡	佐賀県
14 立岩遺跡	福岡県
15 土井ヶ浜遺跡	山口県
16 中ノ浜遺跡	山口県
17 朝田墳墓群	山口県
18 中山貝塚	広島県
19 猪目洞穴	島根県
20 西川津貝塚	島根県
21 阿方貝塚	愛媛県
22 片山貝塚	愛媛県
23 紫雲白山遺跡	香川県
24 高松茶臼山遺跡	香川県
25 門田貝塚	岡山県
26 夢野遺跡	兵庫県
27 水神遺跡	愛知県
28 有珠モシリ遺跡	北海道





A stylized map of Japan, where the landmasses are rendered in a golden-yellow, textured appearance against a dark blue background. A white rectangular box is superimposed over the central part of the main island, Honshu, containing the Japanese character '終' (Shū), which means 'end' or 'final'.

終